

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホーム かえで		
所在地	岩国市南岩国町4丁目59番5-1号		
電話番号	0827-34-2887	事業所番号	3570801187
法人名	有限会社 岩国メディカルサポート		

訪問調査日	平成 21 年 3 月 25 日	評価確定日	平成 21 年 6 月 19 日
評価機関の名称及び所在地	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員計	18 人
職員数	21 人	常勤	13 人 非常勤 8 人 (常勤換算 17 人)

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り	
	2 階建ての	~ 2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家賃	月額 48,000 円	敷金	有 150,000 円	
保証金	無 円	償却の有無	有 / 無	
食費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	円
その他の費用	月額 12,350 円			
	内訳 光熱水費、日常生活費			

(4) 利用者の概要 (3月25日現在)

利用者数	18 名		男性	3 名	女性	15 名
	要介護 1	11	要介護 4	2		
	要介護 2	3	要介護 5			
	要介護 3	2	要支援 2			
年齢	平均 86 歳	最低	79 歳	最高	94 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医科 藤本循環器内科、横田胃腸外科肛門科、たかた整形外科、二宮医院 歯科 藤生歯科センター
---------	--

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点)

利用者一人ひとりが尊重され、居室も一人ひとりの好みに応じて整えられています。認知症ケアに理解の深い職員の見守りのもと、自宅で過ごしているのと同じように、その人らしく伸び伸びと暮らしておられ、ホームの雰囲気は明るく家庭的でとても和やかです。職員も十分に確保されており、個別ケアに重点がおかれています。

(特徴的な取組等)

毎朝、事務長を中心に施設長・職員で約30分間のミーティングが行われ共通理解を深めています。出勤時マニュアルにより、職員同士はハイタッチで挨拶を交わし、人間関係の醸成にも努めておられます。行事の写真をDVDにまとめ、家族会や運営推進会議、暮らしの中で上映し、ホームの行事をわかりやすく紹介すると共に日々の生活の中でも楽しんでいます。安全な食への取り組みとして地元の食材を用いており「地産地消モデル施設」に認定されています。

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況)

前回の評価結果を真摯に受け止められ、改善に向けて努力されています。第三者委員の選任は人材確保の面で実現には至っていませんが、選任に向けた働きかけをしています。

(今回の自己評価の取組状況)

全職員が評価項目を共通理解し、各ユニットで話し合い、取りまとめられました。評価結果についても職員全員で理解しています。

(運営推進会議の取組状況)

自治会長、婦人会長、民生委員、消防署分隊長、利用者(7~8名)、家族(2名)、管理者、職員を構成員として2ヶ月に1回開催されています。ホームの状況報告や行事、防災、ボランティア等について話し合わせ、利用者も意見を述べられています。

(家族との連携状況)

毎月ホーム便りで暮らしぶりを伝えておられます。金銭管理状況が同封され、職員の異動等事業所側の連絡事項についても報告されています。面会時や電話で暮らしぶりや健康状態について報告し、夏祭りやクリスマス会に家族に参加をしてみらい、行事後に家族会も開催されています。

(地域との連携状況)

自治会に加入し、清掃やお祭り等地域の行事に参加しています。ホーム行事の夏祭りには地域向けホームだよりも回覧、配布され、ボランティアの協力も得て、約200人が参加して毎年開催されています。日常的に挨拶や会話が交わされる等、地域にとけ込んでおられ、ホームの消防訓練には地域の人も参加されます。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	地域の人々と家族、職員との交流を通して、その人らしく幸せに暮らせるよう、事業所独自の理念を作り上げている。	
2 (2)	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	出勤時マニュアルで、理念に目を通すことを徹底しており、管理者と職員が朝のミーティングで唱和し、理念の共有と実践に向けて取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	自治会に加入し、地域の清掃や祭り等地域行事に参加している。ホームの夏祭りには地域向けホームだよりを回覧し、配布して、多くの参加者と交流している。消防訓練では地域の参加も呼びかけている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	職員会議で外部評価結果について話し合い、共通理解を深めると共に改善に向けて取り組んでいる。自己評価は、ユニットごとに話し合い意見を取りまとめている。	
5 (10)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	地域代表者、消防、地域包括支援センター、家族、利用者を構成員として2ヶ月に1回開催し、評価やホームの状況報告等を行なって、話し合いを深め、そこでの意見をサービスに活かしている。利用者は7～8名参加し、利用者の意見も尊重されている。	
6 (11)	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	市が開催している研修会に参加し、サービスの質の向上に取り組んでいる。市からの依頼により、地域の高齢者の緊急避難場所になっており、日頃から連携に努めている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	毎月家族向けホーム便りを作成し、日々の暮らしぶりや職員の異動等ホームからの連絡事項も掲載して、金銭管理状況と共に送付している。面会時にも健康状態や受診の結果、暮らしぶりを報告し、状態に変化があった時はその都度電話で連絡をしている。	
8 (18)	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会や運営推進会議で意見を聞き、玄関には意見ボックスを設置している。苦情相談窓口の職員、外部機関を明示している。第三者委員は検討はしているが、選任できていない。	・第三者委員の選任
9 (20)	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	常勤13名、非常勤8名の職員を確保し、必要に応じ臨時に厨房職員を配置する等、利用者の状況やその日の行事に合わせ、柔軟に勤務調整を行っている。	
10 (21)	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	定期的にユニット間の異動を行うことで、全職員が全利用者と同様の関係になるようにしている。離職者がある場合は1ヶ月間の重複勤務をし、利用者へのダメージを防ぐように配慮をしている。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	勤務の一環として外部研修に参加している。内部研修も定期的で開催しており、働きながらトレーニングできるよう取り組んでいる。	
12 (24)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	山口県宅老所・グループホーム連絡会、当該市地域密着型サービス事業者連絡協議会に加入し、情報交換会や研修会で意見の交換や知識の習得を行い、サービスの質の向上に取り組んでいる。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
13 (31)	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>事前の家庭訪問により顔なじみの関係や信頼関係を作ると共に、施設見学や利用者と一緒にの食事会、家族と一緒にの体験入所等を行い、徐々に馴染めるよう工夫している。</p>	
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
14 (32)	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>日々の調理や食事、後片付け、掃除、散歩、買い物等、共に暮らす事で、教えてもらったり、一緒に楽しんだり喜んだりしながら、共に支えあう関係を築いている。</p>	
<p>. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握</p>			
15 (38)	<p>思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。</p>	<p>日々の関わりの中から、利用者の言葉を傾聴し、希望や意向の把握に努めている。困難な場合は家族から生活歴や思いを聞きながら、本人本位に検討を行っている。</p>	
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
16 (41)	<p>チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。</p>	<p>家族の希望や本人の意向も尊重しながら、担当職員や計画作成者のアセスメントを基に、ケア会議やミーティングを行い、利用者本位の介護計画を作成している。</p>	
17 (42)	<p>現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	<p>6ヶ月毎にケアプランの見直しを行なっているが、状況の変化に応じ随時ケアカンファレンスを行ないながら、現状に即した新たな計画を作成している。</p>	
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
18 (44)	<p>事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。</p>	<p>家族や本人の状況に応じ、受診の付き添いや援助、買物や行楽、理美容院の利用等の外出支援を柔軟に行なっている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
19 (49)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	利用者や家族の希望を聞き、適切な医療が受けられるように支援をしている。医師の健康観察や往診が週一回は確保されており、必要に応じ訪問歯科診療も受けることが出来る等、医療との連携が整えられている。	
20 (53)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化や終末期の指針を作成し、医師、看護師、家族、職員で話し合い、全員で方針を共有している。これまでに2名の利用者の看取りをしている。	
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
21 (56)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報保護法・秘密保持・プライバシーに関するマニュアルを作成し、勉強会をしている。家族とも相談の上、プライバシー確保の面から居室の表札は掲げられていない。一人ひとりの自尊心を傷つけない言葉かけや対応をし、記録の取り扱いにも注意をしている。	
22 (59)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	利用者一人ひとりの趣味や特技、経歴等にも配慮し、利用者の希望やペースに合わせた支援をしている。	
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
23 (61)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食の安全を確保するために、米は毎日その日に精米し、地元で取れる食材を使い三食共にホームで調理している。職員と一緒に準備や調理、後片付けを行っている。職員は同じ物を一緒に食べながら、その日の状態や、好みに合わせて食事が楽しめるように支援している。	
24 (64)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	毎日入浴する事が出来、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴の支援をしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
25 (66)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	趣味や経歴等も尊重し、読書や歌唱を楽しみ、生活の場においては食事の支度や片付け、洗濯物たたみ等様々な場を提供し、役割や生活の張り合い、楽しみ事となるよう支援している。	
26 (68)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	利用者一人ひとりのその日の希望に合わせ、散歩や買い物、理美容院の利用、ドライブなど、戸外に出かけられるよう支援している。	
(4) 安心と安全を支える支援			
27 (74)	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	スピーチロックも含め、身体拘束について職員は正しく理解しており、抑制や拘束のない支援にとりくんでいる。	
28 (75)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	全館セキュリティーシステムが稼働しており、対人センサーを設置し、日中は鍵はかかっていない。鍵をかけないケアに取り組んでいる。	
29 (78)	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止マニュアルを作成し、事故防止対策を会議で検討している。ヒヤリはつとや事故があった場合は、報告書を基に、会議で予防策を検討し、再発防止に取り組んでいる。	
30 (79)	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急対応マニュアルを作成しており、緊急時対応の勉強会を行っている。AEDを設置し、研修や訓練を行い全職員が使用できるようにしている。	
31 (81)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の人に参加を呼びかけ、防災訓練を毎年行っている。消防署の協力により、消火器の使い方や無害の煙を発生させ、利用者と一緒に避難・誘導等の訓練を行っている。消火器は2種類用意し、火災に応じて使い分けが出来るようにしている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
mugaino			
32 (84)	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	週1回薬剤師が薬を持って来所し、薬の写真を添えて、処方箋、目的・用法・用量・副作用について説明を行い、職員間で共有している。必要な情報は、医師、看護師、薬剤師にフィードバックしている。薬はその都度手渡しをし、さりげなく服用を確認している。	
33 (86)	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの状態に合わせて支援している。口腔ケア、義歯の洗浄・消毒は生活チェック表に記入している。週1回、ボランティアで歯科衛生士が訪問し、口腔内のチェックやアドバイス、必要に応じ訪問歯科診療も行なっている。	
34 (87)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量、水分量を生活チェック表に記入し、一人ひとりの状態に合わせた支援を行なっている。	
35 (88)	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	感染症対応マニュアルを作成し、勉強会で全職員が理解をしている。消毒チェック表で毎日消毒を行うと共に、感染症の予防に取り組んでいる	
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり			
36 (91)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	共用の生活空間に不快な音や光は無く、季節の花が飾られ、壁面や居間食堂の飾りつけも家庭的で明るい。居間には小上がりの畳の間があり炬燵が設置され、週刊誌等の読み物がさりげなく置かれている。食堂に対面する厨房からは炊事の様子や調理の匂いが感じられ、季節感と共に生活感が感じられる。	
37 (93)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	ベット、レースカーテン、照明器具はホームの備え付けであるが、テーブルやテレビ、洋服掛け、整理棚、仏壇等なじみの物が搬入され、希望者にはベットを撤去し布団で対応している。壁面には本人の作品や家族の写真が、好みに応じて飾られており、居心地よく安心して過ごせるよう工夫されている。	

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム かえで
所在地	山口県岩国市南岩国町四丁目59番5-1号
電話番号	0827-34-2887
開設年月日	平成18年3月16日

【実施ユニットの概要】 (2月15日現在)

ユニットの名称	こすもす			
ユニットの定員	18名			
ユニットの利用者数	18名	男性 4名	女性 14名	
	要介護1	11名	要介護4	3名
	要介護2	2名	要介護5	
	要介護3	2名	要支援2	
年齢構成	平均 86歳	最低 79歳	最高 94歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	家族会や職員会議において議題として提案し、ご意見をいただいて、また話し合いをして現状を調べてまとめました。
評価確定日	平成20年2月15日

【サービスの特徴】

長寿を喜ぶだけでなく、ご入居者様一人ひとりを尊重し、喜びや満足笑顔のたくさんある生活を支援しています。

(考え方)

「認知症」に対する考え方は、「個性」と同じと考えています。又は、家族の思い(愛)が試される機会。当人には試練又はご褒美と考えています。「一期一会」が何度もあるなんて、羨ましいと思いませんか？「認知症」の方は、「不安感・孤独感・疎外感」の中で常に葛藤しており、「安心ができる環境(人・物・場所)」と、当人を必要(役割)とする」だけで、穏やかでその人らしい生活が送れると考えています。

(接し方)

まずは、その人の「性格・習慣・生活歴・趣味」を良く知る。「お客様」扱いせず、「家族」として接します。家事もして頂きますし、感情(喜怒哀楽)も出して接しています。家族の一員としてももちろんケンカ(口論)もします(根のあるケンカはしません)。ケンカが終わると普通に話もしますし、大笑いもします。人間ですから、笑いで和やかに生活するのは不自然ですし、「喜怒哀楽」の感情を出す事で、脳を刺激できるように工夫もしています。

(体制)

管理者1名(介護支援専門員で専従、計画作成担当者・介護従事者も兼務)、計画作成担当者1名(介護従事者も兼務)、介護従事者20(内、常勤12名〔内2名は兼務〕・非常勤8名)、看護職員2名(介護従事者も兼務1名、提携病院より派遣1名)

ほぼ月1回の職員会議(内部研修も含み)、積極的な外部研修参加を実施。

当施設の他部署の専門職員(看護師・理学療法士・介護支援専門員等)との情報交換を密にし、様々な専門的見地からの意見も取り入れています。

(交流)

・ご家族の方々は、面会時やお電話お手紙等により情報交換に努めています。

・地域の方々は、2ヶ月に1回の運営推進会議の実施や自治会活動(現在は職員のみ参加、今後入居方々も参加検討中)への参加。当施設の行事(夏祭り等)への参加呼び掛けも行なっています。

・毎月様々なボランティアの方々の訪問(お話し会・音楽療法・作業療法等)により、楽しまれています。

(特徴)

・食にこだわり、国産の物を提供しています。このたび「地産地消モデル施設」としての認定をいただきま

・社長(医師)宅から徒歩3分圏内にある為、急変時の対応に迅速に対応できます。

・本人、ご家族が“看取り”をご希望されれば、“看取り”も行ないます。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>・理念に基づく運営 1. 理念の共有</p>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。</p>		
	<p>「人がいて自分がある その人のために出来ることを」をモットーに家族、地域の方との交流を作りながら、ご入居者様らしさを尊重しています。例えば、ご入居者様から、買い物や、散歩等の要望があった際は、職員が付き添い、要望に応えるよう努めています。また、自治会でのお祭りや溝掃除など、地域行事にも、積極的に参加しており、春には自治会の御厚意により特別に当グループホームの敷地内に山車を入れて頂き、より近くで祭りを見学できました。</p>		
2	<p>理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>		
	<p>マニュアルを作成し、出勤した際、理念に目を通すことの徹底。または、申し送りを含めた朝のミーティングの際に、全員で唱和し、理念を頭に入れ、勤務につく。勤務中は各職員がご入居者様の立場に立って物事考え、意見交換や確認をしています。</p>		
3	<p>運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。</p>		
	<p>ステーション内に掲示しており、出勤した際に、目を通すことの徹底。また、朝礼・GH会議での説明を行っています。</p>		
4	<p>運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。</p>		
	<p>毎朝(月～土)の朝礼時において、出勤している職員とのミーティングをかかさず行っています。どうすればご入居者様とそのご家族様他に満足いただけるのか、どうすれば少しでも状態が良くなるのかといったことから、職員の要望を聞き、よりよい職場とするための改善点の打ち合わせまで幅広く話し合いをしています。またサービス向上のための会議や講習にも運営者や管理者も参加して職員と話し合いの機会を持っています。</p>		
5	<p>家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。</p>		
	<p>2ヶ月に1回ペースでの運営推進会議会議を行っており、その都度説明や質疑応答をして、少しでもご理解いただけるよう、努力しています。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	散歩時等の挨拶の徹底をしています。また、挨拶だけでなく世間話等こちらから積極的に関わるよう努めています。最近では毎週、当グループホームに移動のパン屋に来ていただいております。近隣の方もパンを買いに気軽に立ち寄って行かれます。その際にご入居者様や職員、近隣の方との交流も図られています。	
7	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	溝掃除や地区の祭りなど積極的に参加するとともに、夏祭りや消防訓練などの参加を呼びかけています。また、当グループホームでの運営推進会議には、民生委員の方や婦人会の方に毎回出席して頂いており、今以上に地域との交流が図れるよう検討しているところです。	
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	専門医師による職員、ご入居者様、地域一般の高齢者への月1回の講演会の実施しています。また、年に2回消防訓練を行い、地域の高齢者へ参加を呼びかけています。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に会議を全職員で行っており、昨年の評価を踏まえた上で、改善点などを挙げ、質の向上に取り組んでいます。また、具体的には、話し合いで決まった重要事項が抜けないようにチェック表を増やしてみたり、記録の見直しをしてより良い介護を目指しています。	
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、毎回、ご入居者様とその家族他、地域住民、地域包括センターや行政の職員の方に参加して頂いており、ご入居者様の活動内容に付いての件で、ご提案頂くこともありますが、速やかに実現致しております。また、外部評価の項目内容について、運営推進会議において議題として挙げ、広く意見を頂いております。	
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議にご参画いただいております。また、行政が開催している研修等に積極的に参加し、その都度職員対象の報告会を開き、援助の向上に取り組んでいます。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護事業・成年後見人についての勉強会を全職員対象に行っており、皆、概要を理解しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13	<p>虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p>		
4. 理念を実践するための体制			
14	<p>契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>		
15	<p>運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>		
16	<p>家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。</p>		
17	<p>情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。</p>		
18	<p>運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。</p>		
19	<p>運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>		
20	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
25	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
26	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p>職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
28	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>家族のみで見学・申し込みされた際は、後日ご本人様が現在生活している場に行き、現在抱えている悩みや、今後のどのような生活を望んでいるのか、ご本人様の気持ちを理解・把握するよう努めています。</p>	
29	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>見学、申し込みをされた際は、ご家族の抱えている不安、要望を詳しく聞き、ご家族から見たご本人の今おかれている状態を把握し、今後について、ご家族と同じ目線で話をしています。</p>	
30	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>一概にグループホームという方向性のみではなく、他のサービスを含めて総合的に考え、ご提案しています。</p>	
31	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>サービス利用前に、お食事を当グループホームで食べていただき、他者との交流を図る機会を設けています。職員は他者との対話の仲立ちの手伝いをしながら馴染んでいただけるよう努力しています。過去の生活歴に合わせて、馴染めるよう努めています。</p>	?
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
32	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>全職員が仕事をしているという考えではなく、一緒に生活しているという考えを持ち、ご入居者様と家事をしたり、一緒に食事を食べています。また、散歩や買い物、外食等で外出する際も、外出先の選定もご入居者様と話をし、ご入居者様主体の共同生活を実施しています。</p>	
33	<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会に来られた際は、各ご入居者様の様子を報告したり、ご家族と世間話をしたりと、家族の方と良好な関係が築けていると思います。また、家族の方の悩みや思いについても、聞かせていただき、ご家族と同じ立場に立って一緒に解決策を考えています。</p>	
34	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご入居者様や当グループホームの様子をご家族に知っていただくため、1ヵ月に一度ホーム便りを作成し送っています。また、ご家族が面会に来られた際は、ご入居者様の現在の状態・状況についての様子や、ご家族の考えについて話し合っています。家族同士の関わりについて積極的に取り組んでおり、意見が交わせる場(家族会)を設けています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	<u>馴染みの人や場所との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	<u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	<u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	<u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	<u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	<u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	<u>チームで作る利用者本位の介護計画</u> 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
42	<u>現状に即した介護計画の見直し</u> 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		ご入居者様の買い物や通院をするのが困難なご家族に代わって職員が付き添いをしている。また、ご要望があれば入退院時の付き添いもしています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		ボランティアの方の協力を積極的に呼びかけ毎月何組かのボランティアの方にお越しいただいています。内容としては、お話し会・手遊び・中学生による琴や絵画・お菓子作り等があります。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。		専門医師による講演会を毎月行い、地域の方を招待しており、毎回多数の方に参加いただいています。一般の方の見学や研修等も積極的に受け入れに努めています。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		ご入居者さまやご家族他のご要望を伺い、他の介護事業者の提供サービスの見学への付き添いや連絡をしています。
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターの方々には、運営推進会議にご参画いただいております。会議のおりにご意見をいただいたり、ご相談をいたしております。
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		ご利用者様や家族他の希望を最大限にききながら、最適な医療が受けられるように相談・支援をいたしております。また、歯科医等往診にも来ていただけますので、調子が悪く受診へ行くことが困難な場合でも対応いたしております。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		毎週最低1回以上の医師による往診、また細かな変化にも日々医師と相談をしながら最適な治療が受けられるよう支援しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
51 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	情報交換をしながら、受診や治療計画をたて、日常生活を自分らしく送れるように支援しています。		
52 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院施設の地域医療連携室とコミュニケーションをとり、情報交換をする。直接、医師・看護師と話をし、利用者の意思を尊重するように努めています。		
53 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	苦痛はできるかぎり取り除くための医療行為や介護を行い、自分らしさを維持しながら、安らかに死を受け入れられる又、迎えられるよう環境を整え支援しています。		
54 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	週最低1回の看護師によるご入居者様の状態の確認と、週最低1回以上(状態に応じて適宜往診があります。)の医師による往診により、重度や終末期の方のより良い暮らしのために職員と連携し支援しております。		
55 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人様に、事前にお食事だけいらしていただいて雰囲気慣れていただいたり、ご家族への十分な説明や設備見学・食事体験へのご案内、また移ってこられる前の施設職員からも十分な聞き取りを行い、また情報の提供を相互に行うことで、住み替えによるダメージを防ぐことに努めています。		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報保護法・秘密保持・プライバシーに関する勉強会を開いており、一人ひとりの自尊心を傷付けない言葉遣いや対応し、記録等も慎重に取り扱っています。		
57 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者一人ひとりに合わせ、コミュニケーションを図り、その方の思いを引き出すような声掛けに努めている。また、言語での意思疎通が困難な方には表情や様子を素早く読み取り、ジェスチャーなど全身でのコミュニケーションを図っており、職員は常に待つという姿勢で自立支援を促しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	<p>“できる力”を大切にしたい家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>		
59	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		
61	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>		
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	充実した日々を過ごしていただく為。また、ご入居者様が主役ということもあり、家事はご入居者の方中心で行うよう心掛けています。自ら率先して行う方もいますが、固定することなく、皆さんに声掛けしています。具体例としては、テーブルのセット、調理、盛りつけ、配膳、下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ、歌を唄う、体操、レク等があります。	
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当グループホームでは公衆電話を設置しており、使用される際には、お金が必要な為小銭を所有している方が多い。また、買い物などに行く際は、お会計はなるべくご入居者様が行えるよう援助しています。	
68	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	行事として行くこともありますが、ご入居者様のその日の希望により、散歩、ドライブ、買い物、外食等支援しています。また、最近では、ご入居者様のなじみのお店の店員とも、親しい関係を築けています。	
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日帰りで海を見に行ったり、宮島への小旅行の計画を進めております。また、普段食べないような物を希望された場合には、職員が再現してみたり、食べに出かけたりもしております。	
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置しており、24時間使用可能にしています。夜間または朝方でも、家族に電話したいとの要望がある方には、あらかじめ家族の方に了解を得るようにし、時間に関係なく、電話できるようにしています。手紙については、自力にて書くのが困難な場合は、職員が援助しており、以前には、海外にも送られている。	
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	当グループホームでは24時間訪問可能となっております。また、訪問者やご入居者様の希望により外出、外泊、宿泊等なんにでも対応できるよう、準備しています。	
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	マニュアルを作成し、勉強会は行なっており、対応できるようにしているが、今まで事例はありません。	
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	春に花見・夏に夏祭り・冬にクリスマス会と、年3回参加を呼びかけ、毎回多数のご家族に参加して頂いている。ご家族が参加することで、ご入居者様も大変喜ばれ、良い思い出となっているので、今後秋の運動会と四季で参加できるよう検討していきたくと思っています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	権利擁護や身体拘束等のマニュアルを作成し、勉強会を開いており、職員全員理解しています。	
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	出入り口は鍵をかけず自由に生活していただけるようにしている。職員が気づかず外出するケースも考えられるため、そのため安全対策で対人センサーを設置しています。また、全館セキュリティシステムで無人部分の適切な見守りを行っています。	
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員必ず1名はホール対応にて、見守りを行っており、入居者の方の所在確認しています。また夜間に関しては夜勤者は1時間毎巡回を行っており、記録に残しています。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁や洗剤等ご入居者様が自由に使用していただけるようにしているが、使用しない時間帯には手の届かないところに保管し、要望があった際、使用していただくよう管理している。薬に関しては、ステーション内の棚に鍵をかけ保管しています。また、ご入居者様の私物(刃物・裁縫道具など)に関しては、各入居者担当の職員が所有物のチェック表を作成しており、状況に合わせて保管させてもらっています。	
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止についての、マニュアルを作成し、事故防止策についての会議を開き、徹底している。また、事故、ヒヤリはつがあった際には、書類を作成し、会議にて予防策を検討し、対策を練っています。	
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	以前にAED(自動体外式除細動器)のインストラクターをお招きし全職員講習に参加し使用方法を把握している。また、緊急時態対応マニュアルを作成しており、勉強会を行なっています。	
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書を作成し、会議を2回行い、職員同士で見合わせ再発防止に努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
89	<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>			
90	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
91	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>		
92	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
93	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
94	<p>換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
95	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
96 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの扉にトイレと記載した紙が貼ってあり、混乱や失敗を防いでいます。		
97 建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に畑、花壇、ベンチがあるため、外周リの散歩時などは楽しみながら活動しています。また、かえで内にエレベーターが設置されているため、車椅子のご入居者様でも要望に応じて気軽に外出する事ができます。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム かえで
所在地	山口県岩国市南岩国町四丁目59番5-1号
電話番号	0827-34-2887
開設年月日	平成18年3月16日

【実施ユニットの概要】 (2月15日現在)

ユニットの名称	なのはな			
ユニットの定員	18名			
ユニットの利用者数	18名	男性 4名	女性 14名	
	要介護1	11名	要介護4	3名
	要介護2	2名	要介護5	
	要介護3	2名	要支援2	
年齢構成	平均 86歳	最低 79歳	最高 94歳	

【自己評価の実施体制】

実施方法	家族会や職員会議において議題として提案し、ご意見をいただいて、また話し合いをして現状を調べてまとめました。
評価確定日	平成20年2月15日

【サービスの特徴】

長寿を喜ぶだけでなく、ご入居者様一人ひとりを尊重し、喜びや満足笑顔のたくさんある生活を支援しています。

(考え方)

「認知症」に対する考え方は、「個性」と同じと考えています。又は、家族の思い(愛)が試される機会。当人には試練又はご褒美と考えています。「一期一会」が何度もあるなんて、羨ましいと思いませんか？「認知症」の方は、「不安感・孤独感・疎外感」の中で常に葛藤しており、「安心ができる環境(人・物・場所)」と、当人を必要(役割)とする」だけで、穏やかでその人らしい生活が送れると考えています。

(接し方)

まずは、その人の「性格・習慣・生活暦・趣味」を良く知る。「お客様」扱いせず、「家族」として接します。家事もして頂きますし、感情(喜怒哀楽)も出して接しています。家族の一員としてもちろんケンカ(口論)もします(根のあるケンカはしません)。ケンカが終わると普通に話もしますし、大笑いもします。人間ですから、笑いで和やかに生活するのは不自然ですし、「喜怒哀楽」の感情を出す事で、脳を刺激できるように工夫もしています。

(体制)

管理者1名(介護支援専門員で専従、計画作成担当者・介護従事者も兼務)、計画作成担当者1名(介護従事者も兼務)、介護従事者20(内、常勤12名〔内2名は兼務〕・非常勤8名)、看護職員2名(介護従事者も兼務1名、提携病院より派遣1名)

ほぼ月1回の職員会議(内部研修も含み)、積極的な外部研修参加を実施。

当施設の他部署の専門職員(看護師・理学療法士・介護支援専門員等)との情報交換を密にし、様々な専門的見地からの意見も取り入れています。

(交流)

・ご家族の方々は、面会時やお電話お手紙等により情報交換に努めています。

・地域の方々は、2ヶ月に1回の運営推進会議の実施や自治会活動(現在は職員のみ参加、今後入居方々も参加検討中)への参加。当施設の行事(夏祭り等)への参加呼び掛けも行なっています。

・毎月様々なボランティアの方々の訪問(お話し会・音楽療法・作業療法等)により、楽しまれています。

(特徴)

・食にこだわり、国産の物を提供しています。このたび「地産地消モデル施設」としての認定をいただきま

・社長(医師)宅から徒歩3分圏内にある為、急変時の対応に迅速に対応できます。

・本人、ご家族が“看取り”をご希望されれば、“看取り”も行ないます。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
	「人がいて自分がある その人のために出来ることを」をモットーに家族、地域の方との交流を作りながら、ご入居者様らしさを尊重しています。例えば、ご入居者様から、買い物や、散歩等の要望があった際は、職員が付き添い、要望に応えるよう努めています。また、自治会でのお祭りや溝掃除など、地域行事にも、積極的に参加しており、春には自治会の御厚意により特別に当グループホームの敷地内に山車を入れて頂き、より近くで祭りを見学できました。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
	マニュアルを作成し、出勤した際、理念に目を通すことの徹底。または、申し送りを含めた朝のミーティングの際に、全員で唱和し、理念を頭に入れ、勤務につく。勤務中は各職員がご入居者様の立場に立って物事考え、意見交換や確認をしています。		
3	運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
	ステーション内に掲示しており、出勤した際に、目を通すことの徹底。また、朝礼・GH会議での説明を行っています。		
4	運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえ、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
	毎朝(月～土)の朝礼時において、出勤している職員とのミーティングをかかさず行っています。どうすればご入居者様とそのご家族様他に満足いただけるのか、どうすれば少しでも状態が良くなるのかといったことから、職員の要望を聞き、よりよい職場とするための改善点の打ち合わせまで幅広く話し合いをしています。またサービス向上のための会議や講習にも運営者や管理者も参加して職員と話し合いの機会を持っています。		
5	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる。		
	2ヶ月に1回ペースでの運営推進会議会議を行っており、その都度説明や質疑応答をして、少しでもご理解いただけるよう、努力しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 地域との支えあい			
6	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄りしてもらえようような日常的な付き合いができるよう努めている。	散歩時等の挨拶の徹底をしています。また、挨拶だけでなく世間話等こちらから積極的に関わるよう努めています。最近では毎週、当グループホームに移動のパン屋に来ていただいております。近隣の方もパンを買いに気軽に立ち寄って行かれます。その際にご入居者様や職員、近隣の方との交流も図られています。	
7	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	溝掃除や地区の祭りなど積極的に参加するとともに、夏祭りや消防訓練などの参加を呼びかけています。また、当グループホームでの運営推進会議には、民生委員の方や婦人会の方に毎回出席して頂いており、今以上に地域との交流が図れるよう検討しているところです。	
8	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	専門医師による職員、ご入居者様、地域一般の高齢者への月1回の講演会の実施しています。また、年に2回消防訓練を行い、地域の高齢者へ参加を呼びかけています。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	定期的に会議を全職員で行っており、昨年の評価を踏まえた上で、改善点などを挙げ、質の向上に取り組んでいます。また、具体的には、話し合いで決まった重要事項が抜けないようにチェック表を増やしてみたり、記録の見直しをしてより良い介護を目指しています。	
10	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	2ヶ月に1回運営推進会議を行い、毎回、ご入居者様とその家族他、地域住民、地域包括センターや行政の職員の方に参加して頂いており、ご入居者様の活動内容に付いての件で、ご提案頂くこともありますが、速やかに実現致しております。また、外部評価の項目内容について、運営推進会議において議題として挙げ、広く意見を頂いております。	
11	市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議にご参画いただいております。また、行政が開催している研修等に積極的に参加し、その都度職員対象の報告会を開き、援助の向上に取り組んでいます。	
12	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。	地域福祉権利擁護事業・成年後見人についての勉強会を全職員対象に行っており、皆、概要を理解しています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13 虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止法についてのマニュアルを作成し、グループホーム会議などで、虐待についての知識を深めています。また、虐待を発見した際はマニュアルに従い適切に対応できるよう徹底しています。		
4. 理念を実践するための体制			
14 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時には契約書に沿って解りやすくご利用者とその家族他に説明を行っており、パンフレットや実費料金表などを提示して分かりやすく説明しています。解約時にも理解、納得を図るよう心がけています。また、契約の解除の場合には、退居後に入所となる施設との橋渡しなど、様々な面で協力と説明をしています。		
15 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご入居者様の表情をみて職員から積極的にその人の思い、不満を聞き出すよう心がけています。また、ご入居者様は、そのご家族他の方に自由に電話を掛けることが出来る環境にあり、自由に外部とのコミュニケーションを取られています。		
16 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	ご入居者様の健康状態に異変があった際や受診を行なった際は、随時その家族他に連絡をしています。職員の異動や金銭管理についても、面会に来られた際に説明させてもらっています。		
17 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	ご入居者様とその家族他から要望があった際は、規則に準じて記録等を公開しています(他者の個人情報に触れる内容については規則により公開できません。)。また、わかりやすく表や写しの形での情報の提供も行っております。		
18 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族会・運営推進会議にて意見の交換を行っております。また、思いや考えが話しやすい環境を作るため、お茶や手作りのお菓子を食べながら、和やかなムードで行っております。開設当初から、入り口に意見等自由に書ける意見ボックスも設置しています。		
19 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	朝礼または申し送りにて意見交換を行ったり、GH会議で質疑応答を行い、援助に活かしています。		
20 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	2ユニットであることのメリットを生かし、また、職員も余裕を持って採用しているので外出等の要望に応じて多めに職員を配置したり、柔軟な勤務体制を実現している。また、職員と話し合いながら希望も聞いて無理なく勤務表を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
21	<p>職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>		
5. 人材の育成と支援			
22	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>		
23	<p>職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。</p>		
24	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>		
25	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>		
26	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。</p>		
27	<p>職員の業務に対する適切な評価 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</p> <p>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</p>			
28	<p>初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>家族のみで見学・申し込みされた際は、後日ご本人様が現在生活している場に行き、現在抱えている悩みや、今後のどのような生活を望んでいるのか、ご本人様の気持ちを理解・把握するよう努めています。</p>	
29	<p>初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。</p>	<p>見学、申し込みをされた際は、ご家族の抱えている不安、要望を詳しく聞き、ご家族から見たご本人の今おかれている状態を把握し、今後について、ご家族と同じ目線で話をしています。</p>	
30	<p>初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>一概にグループホームという方向性のみではなく、他のサービスを含めて総合的に考え、ご提案しています。</p>	
31	<p>馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。</p>	<p>サービス利用前に、お食事を当グループホームで食べていただき、他者との交流を図る機会を設けています。職員は他者との対話の仲立ちの手伝いをしながら馴染んでいただけるよう努力しています。過去の生活歴に合わせて、馴染めるよう努めています。</p>	?
<p>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</p>			
32	<p>本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。</p>	<p>全職員が仕事をしているという考えではなく、一緒に生活しているという考えを持ち、ご入居者様と家事をしたり、一緒に食事を食べています。また、散歩や買い物、外食等で外出する際も、外出先の選定もご入居者様と話をして、ご入居者様主体の共同生活を実施しています。</p>	
33	<p>本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会に来られた際は、各ご入居者様の様子を報告したり、ご家族と世間話をしたりと、家族の方と良好な関係が築けていると思います。また、家族の方の悩みや思いについても、聞かせていただき、ご家族と同じ立場に立って一緒に解決策を考えています。</p>	
34	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。</p>	<p>ご入居者様や当グループホームの様子をご家族に知っていただくため、1ヵ月に一度ホーム便りを作成し送っています。また、ご家族が面会に来られた際は、ご入居者様の現在の状態・状況についての様子や、ご家族の考えについて話し合っています。家族同士の関わりについて積極的に取り組んでおり、意見が交わせる場(家族会)を設けています。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
35	馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。		
36	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。		
37	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント 1. 一人ひとりの把握			
38	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
39	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
40	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41	チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
42	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		ご入居者様の買い物や通院をするのが困難なご家族に代わって職員が付き添いをしている。また、ご要望があれば入退院時の付き添いもしています。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。		ボランティアの方の協力を積極的に呼びかけ毎月何組かのボランティアの方にお越しいただいています。内容としては、お話し会・手遊び・中学生による琴や絵画・お菓子作り等があります。
46	事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している(認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等)。		専門医師による講演会を毎月行い、地域の方を招待しており、毎回多数の方に参加いただいています。一般の方の見学や研修等も積極的に受け入れに努めています。
47	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。		ご入居者さまやご家族他のご要望を伺い、他の介護事業者の提供サービスの見学への付き添いや連絡をしています。
48	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。		地域包括支援センターの方々には、運営推進会議にご参画いただいております。会議のおりにご意見をいただいたり、ご相談をいたしております。
49	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。		ご利用者様や家族他の希望を最大限にききながら、最適な医療が受けられるように相談・支援をいたしております。また、歯科医等往診にも来ていただけますので、調子が悪く受診へ行くことが困難な場合でも対応いたしております。
50	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。		毎週最低1回以上の医師による往診、また細かな変化にも日々医師と相談をしながら最適な治療が受けられるよう支援しています。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
51 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員(母体施設の看護師等)あるいは地域の看護職(かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等)と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	情報交換をしながら、受診や治療計画をたて、日常生活を自分らしく送れるように支援しています。		
52 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	入院施設の地域医療連携室とコミュニケーションをとり、情報交換をする。直接、医師・看護師と話をし、利用者の意思を尊重するように努めています。		
53 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	苦痛はできるかぎり取り除くための医療行為や介護を行い、自分らしさを維持しながら、安らかに死を受け入れられる又、迎えられるよう環境を整え支援しています。		
54 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	週最低1回の看護師によるご入居者様の状態の確認と、週最低1回以上(状態に応じて適宜往診があります。)の医師による往診により、重度や終末期の方のより良い暮らしのために職員と連携し支援しております。		
55 住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	ご本人様に、事前にお食事だけいらしていただいて雰囲気慣れていただいたり、ご家族への十分な説明や設備見学・食事体験へのご案内、また移ってこられる前の施設職員からも十分な聞き取りを行い、また情報の提供を相互に行うことで、住み替えによるダメージを防ぐことに努めています。		
<p>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
56 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	個人情報保護法・秘密保持・プライバシーに関する勉強会を開いており、一人ひとりの自尊心を傷付けない言葉遣いや対応し、記録等も慎重に取り扱っています。		
57 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者一人ひとりに合わせ、コミュニケーションを図り、その方の思いを引き出すような声掛けに努めている。また、言語での意思疎通が困難な方には表情や様子を素早く読み取り、ジェスチャーなど全身でのコミュニケーションを図っており、職員は常に待つという姿勢で自立支援を促しています。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	<p>“できる力”を大切にしたい家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。</p>		
59	<p>日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。</p>		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	<p>身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。</p>		
61	<p>食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。</p>		
62	<p>本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。</p>		
63	<p>気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。</p>		
64	<p>入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。</p>		
65	<p>安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
66	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	充実した日々を過ごしていただく為。また、ご入居者様が主役ということもあり、家事はご入居者の方中心で行うよう心掛けています。自ら率先して行う方もいますが、固定することなく、皆さんに声掛けしています。具体例としては、テーブルのセット、調理、盛りつけ、配膳、下膳、洗濯物干し、洗濯物たたみ、歌を唄う、体操、レク等があります。	
67	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	当グループホームでは公衆電話を設置しており、使用される際には、お金が必要な為小銭を所有している方が多い。また、買い物などに行く際は、お会計はなるべくご入居者様が行えるよう援助しています。	
68	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	行事として行くこともありますが、ご入居者様のその日の希望により、散歩、ドライブ、買い物、外食等支援しています。また、最近では、ご入居者様のなじみのお店の店員とも、親しい関係を築けています。	
69	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	日帰りで海を見に行ったり、宮島への小旅行の計画を進めております。また、普段食べないような物を希望された場合には、職員が再現してみたり、食べに出かけたりもしております。	
70	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	公衆電話を設置しており、24時間使用可能にしています。夜間または朝方でも、家族に電話したいとの要望がある方には、あらかじめ家族の方に了解を得るようにし、時間に関係なく、電話できるようにしています。手紙については、自力にて書くのが困難な場合は、職員が援助しており、以前には、海外にも送られている。	
71	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	当グループホームでは24時間訪問可能となっております。また、訪問者やご入居者様の希望により外出、外泊、宿泊等なんにでも対応できるよう、準備しています。	
72	家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	マニュアルを作成し、勉強会は行なっており、対応できるようにしているが、今まで事例はありません。	
73	家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	春に花見・夏に夏祭り・冬にクリスマス会と、年3回参加を呼びかけ、毎回多数のご家族に参加して頂いている。ご家族が参加することで、ご入居者様も大変喜ばれ、良い思い出となっているので、今後秋の運動会と四季で参加できるよう検討していきたいと思っています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援			
74	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	権利擁護や身体拘束等のマニュアルを作成し、勉強会を開いており、職員全員理解しています。	
75	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	出入り口は鍵をかけず自由に生活していただけるようにしている。職員が気づかず外出するケースも考えられるため、そのため安全対策で対人センサーを設置しています。また、全館セキュリティシステムで無人部分の適切な見守りを行っています。	
76	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員必ず1名はホール対応にて、見守りを行っており、入居者の方の所在確認しています。また夜間に関しては夜勤者は1時間毎巡回を行っており、記録に残しています。	
77	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	包丁や洗剤等ご入居者様が自由に使用していただけるようにしているが、使用しない時間帯には手の届かないところに保管し、要望があった際、使用していただくよう管理している。薬に関しては、ステーション内の棚に鍵をかけ保管しています。また、ご入居者様の私物(刃物・裁縫道具など)に関しては、各入居者担当の職員が所有物のチェック表を作成しており、状況に合わせて保管させてもらっています。	
78	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故防止についての、マニュアルを作成し、事故防止策についての会議を開き、徹底している。また、事故、ヒヤリはつがあった際には、書類を作成し、会議にて予防策を検討し、対策を練っています。	
79	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	以前にAED(自動体外式除細動器)のインストラクターをお招きし全職員講習に参加し使用方法を把握している。また、緊急事態対応マニュアルを作成しており、勉強会を行なっています。	
80	再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリはつと報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	事故報告書、ヒヤリハット報告書を作成し、会議を2回行い、職員同士で見合わせ再発防止に努めています。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
81	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。		
82	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
83	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。		
84	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。		
85	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。		
86	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。		
87	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。		
88	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印(取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
89	<p>食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり</p>			
90	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>		
91	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。</p>		
92	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>		
93	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>		
94	<p>換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>		
<p>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</p>			
95	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送ることができるように工夫している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り 組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
96 わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	トイレの扉にトイレと記載した紙が貼ってあり、混乱や失敗を防いでいます。		
97 建物の外周リや空間の活用 建物の外周リやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	庭に畑、花壇、ベンチがあるため、外周リの散歩時などは楽しみながら活動しています。また、かえで内にエレベーターが設置されているため、車椅子のご入居者様でも要望に応じて気軽に外出する事ができます。		

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を 印で囲むこと)	
. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者の <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいの	利用者の2/3くらいの ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	<input checked="" type="checkbox"/> 毎日ある <input type="checkbox"/> たまにある	数日に1回程度ある ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等と <input type="checkbox"/> 家族の1/3くらいと	家族の2/3くらいと ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ毎日のように <input type="checkbox"/> たまに	数日に1回程度 ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	<input checked="" type="checkbox"/> 大いに増えている <input type="checkbox"/> あまり増えていない	少しずつ増えている 全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての職員が <input type="checkbox"/> 職員の1/3くらいが	職員の2/3くらいが ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての利用者が <input type="checkbox"/> 利用者の1/3くらいが	利用者の2/3くらいが ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input checked="" type="checkbox"/> ほぼ全ての家族等が <input type="checkbox"/> 家族等の1/3くらいが	家族等の2/3くらいが ほとんどできていない